

【海外交流報告】

第 8 回 中日韓学術交流大会に参加して

西谷 源展(44 回生)

今年 2 月 24 日から開催された「第 8 回中日韓学術交流大会」に参加するために笠井俊文、赤澤博之両先生と 3 名で台湾を訪問した。これは日本放射線技師会と台湾、韓国の技師会による学術交流として毎年 3 カ国で開催されている。今回はインターナショナルセッションでの口述発表が主な目的であった。

2 月 23 日に関西空港を出発し、台湾の桃園国際空港には 2 時間ほどで到着した。桃園国際空港からはタクシーにて目的地の新竹市に向かい、40 分程度で滞在するホテルに到着した。当日は懇親会が開催されるということで夕刻に懇親会場となるホテルに出かけた。

出発前に学術交流の会場となる元培科技大学が本学第 13 回生である蔡炳坤氏の設立された大学であることが判っていた。数年前に氏のご令嬢である蔡雅賢副校長も本学を訪問され、後に山田勝彦先生も同大学から招聘され講義に行かれたこともあった。

懇親会は予定時刻よりかなり遅れて開催された。会場には日本放射線技師会の会長である 41 回生の熊谷和正氏も出席され日本放射線技師会を代表して挨拶をされた。懇親会場のテーブルに座ると隣席が偶然にも元培科技大学の教授であった。東北大学の卒業ということで日本語もうまく、蔡雅賢副校長も参加されることを知った。しばらくしてお会いすることができ、校長の林進財氏も紹介をしていただき、翌日に大学で再びお会いする約束ができた。

24 日に同大学にて行われる学術交流大会に参加した。ここでは赤澤先生が 5 番目に「Appropriate adjustment of anti-scatter grids for a direct-type flat panel detector」と題して口述発表した。この発表は、後に行われたセレモニーにおいて優秀な発表として最初に表彰を受けた。

発表後に大学の先生に案内されて、蔡雅賢副校長に会うことになり副学長室を訪問した。部屋は広く 5 階にあるためにそこからの眺めもすばらしかった。部屋には創立者の蔡炳坤氏の写真が飾られ、ここでしばし歓談を持つことができた。午後には、蔡炳坤氏を記念した大学の歴史博物館が開設されており、この施設の見学をさせていただいた。入り口には、同氏が使用した島津製作所製の X 線透視装置が飾られ、館内は多くの同氏にまつわる資料が展示されていた。その中には、本学卒業時の記念写真や滝内政次郎校長が訪問したときの写真など、また本学とのかかわりについても詳しく展示されていた。数年前に蔡雅賢副校長が本学を訪問された時に撮影された山田、西谷、藤本(前事務局長)、橋詰(前教務課長)との写真も展示されていた。本学のルーツを異国の地で見たような気分でもあった。歴史博物館のご案内は蔡雅賢副校長のご令嬢である黄曉令様であったが、東京生まれの大阪育ちとかで日本語も流暢に話され、われわれを案内していただいた。

蔡炳坤氏の設立した元培科技大学は、緑豊かな広大な敷地にあり学生数 7000 名が在籍する大学で 3 学部 15 学科が設置されている。大学構内は時間の都合で全体を見ることはできなかった。

その後には、同大学の先生の案内で新竹市内の観光地を案内していただいた。夜には市内の洒落たレストランでご家族とのディナーにご招待を受けた。同席には蔡炳坤氏の奥様と蔡雅賢副校長のご令嬢も同席されご家族でのご歓待を受けた。奥様は90歳を超えられる高齢であるがお元気で、しかもしっかりとした日本語で相手をしてくださった。突然の訪問にもかかわらずご家族で歓迎していただき感激の1日であった。

翌日、新竹から台北に新幹線で向かった。日本のJRの技術で造られた新幹線は高铁と書かれているが、「新幹線」でも通じるということであった。台北では半日ほどの時間で故宮博物館などを見学し、翌日には関西空港に向かって帰国の途に着いた。

以上

*通巻188号 2008年7月10日発行(H20 - No.2)より